

関電は老朽原発を発動かすな 高浜全国大会

高浜原発抗議行動

3月20日、「3・20関電よ！老朽原発動かすな！高浜全国集会」に、大阪支部から執行部4名が参加しました。現地集合場所に向け車を走らせていると集合場所へ近づくにつれ巡回しているパトカーが増え、集会場近辺では検問がおこなわれていました。

11時45分から音海展望台（高浜原発周辺監視区域に指定）で総勢400名を超える仲間と高浜原発北門へデモで向かい、抗議行動と申入れをおこないました。



高浜町と岩国市内の類似点

抗議行動を終え、高浜町内を移動していて私が感じた違和感は町の風景に似合わぬ豪華な町役場やスポーツ施設、高浜町文化会館、どれもが建築されて間もない建造物でした。これは昨年、私が参加した岩国国際連帯集会で見た岩国市内の関連施設と同じ光景でした。国家による「岩国基地＝思いやり予算」「高浜原発＝原発マネー」このような「アメとムチ」を使い分けたやり方は、岩国国際連帯集会で現地活動家が話していたことと同じです。

高浜町文化会館で14時から

「老朽原発を動かすな！高浜全国集会」が開催されました。原発に対し各地から報告と問題提起がありました。

福島原発事故から10年が経ち、この事故が「原発が現在の科学で手に負える装置でないこと」を大きな犠牲の上に証明しました。

福島原発事故のあと、事故リスクの高い老朽原発の廃炉を着実に進めるために「原発の運転は40年まで」というルールが作られました。関電と政府は40年ルールがあるにも関わらず「高浜1、2号機と美浜3号機の20年追加延長」を認めました。

さらに、老朽原発の運転を原子力規制委員会が認可した2016年以降に、蒸気発生器配管の減肉・損傷、再稼働準備工事中の人身事故、原発関連工事費の不正還流など、トラブル、不祥事が頻発しています。なお、昨年12月に基準地震動の評価が過小であるとして、大飯原発3、4号機の設置許可取り消しを命じた大阪地裁判決は、原子力規制委員審査のいい加減さを端的に指摘しています。また、関電に関しては一昨年発覚した「原発マネーに関わる不祥事」の調査は、いまだに納得できるものではなく、関電が企業体質を抜本的に改善したとするには程遠い状態にあります。

高浜原発の現在と世論

関電が1月、3月に再稼働させようとしていた美浜原発3号機、高浜原発1号機は、いまだに燃料装荷すらされていません。3月18日、茨城県水戸地裁判決で、老朽原発で

ある東海第2原発の運転差し止めを命じました。「原発が重大事故を起こしたら避難は不可能」および「老朽原発うごかすな！」の圧倒的な民意に支えられた判決です。また、最近の報道では、脱原発を望む声が82%にも達し、ますます大きくなっています。



私は今回の活動を通じ「原発の必要性」に疑問を感じました。先ほども述べた通り「原発は現在の科学では手に負える装置ではない」のです。

私たちは10年前の福島原発事故を経験しました。周辺地域の方がたは、いまだに避難生活を余儀なくされ、帰宅困難区域に指定されている人たちは生まれ育った地を去る事を余儀なくされました。高浜原発をはじめ、周辺原発に事故があれば、関西の水瓶であるびわ湖は汚染され、私たちは生きる上で一番大切な「水」を失うことになります。

また、私たちが絶対に忘れてはいけないのは「1945年に広島と長崎に原爆が投下されたこと」です。日本は世界で唯一の被爆国です。私は以前から、大阪支部の先輩に「平和なくして労働運動なし」と聞いていました。最近、この言葉を耳にする機会が多くなりました。平和とはなにか、労働運動とはなにか、活動をすればするほどいろいろな問題に直面し、考えることが多くなります。皆さんと一緒にこの答えに辿りつければいいかと自分ながら感じています。（執行部 佐久原）

ユニオンネット春闘総行動

第1弾 3月17日

おおさかユニオンネット春闘総行動・第1弾として大阪支部より4名が京都西山短期大学への抗議行動に参加しました。

現地には総勢60名を超える仲間が結集し、その中には留学生生徒の数名も参加していました。抗議行動の最中、大学講師の1人が留学生のもとに歩み寄り罵声を浴びせるなど、指導者としての資質を疑うような場面もありました。

このような差別的な行為やパワハラ行為を平然とおこなう大学側によるA講師・W講師（中国籍）に対する雇止めは労働契約法第18条無期転換逃れであり解雇権の乱用は許せません。私は今回の抗議行動の中で大学側の非礼な対応を目の当たりにして、同じ日本人として情けなく悲しくな



りました。（執行部 佐久原）

第2弾 3月24日

おおさかユニオンネットワーク春闘総行動・第2弾が行われました。総行動とは、ネットワークに結集する仲間と共に争議現場へ出向き、申し入れ・抗議行動を行うものです。参加者は約200名の仲間が駆け付けました。午前9時から大阪市役所前で出発集会が始まり、

①なかまユニオンは安心できる介護を求め大阪市役所へ申し入れを行いました。

②大阪市中心区「大建技術コンサルティング」で、全日建ゼネラル支部組合員1名に対し、コロナ休業を言い渡し組合排除ととれる支配介入が行われ、抗議申し入れをしました。

③大阪市北区「サンケン電気大阪支店」に対し、大阪と韓国のサンケン電気労組の仲間とオンラインで繋ぎ、共に抗議行動の声を上げました。

④「豊中郵便局」の上司からのパワハラ問題に対し「郵政ユニオン」のもと、多くの仲間と共に抗議の声を上げました。

⑤西成区の医療法人山紀会は結成以来7年間も不誠実な団交を繰り返し、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から「ケアワーカーズユニオン」から休戦提案したが無視したその後、病院内でクラスターを引き起こした。山紀会本部に対し、初の抗議行動を行いました。

⑥介護を運営する「リアン合同会社」では残業代未払いの案件で、「ユニオンぼちぼち」は会社と交渉を繰り返した結果、一度は支払うとしたものの一向に履行せず、挙句の果てに支払金額を値切ってくるといった不誠実な対応に抗議の声を上げました。ここから2班に分かれ、偽装請負の案件でここ2年以上争議となっている「東リ本社」に対する抗議行動をおこないました。

◇

そして、労働委員会の命令を無視し不誠実極まりない「会社」に対して、抗議行動をおこないました。労働委員

会は「この会社の不当労働行為は明らかであり組合員の職場復帰と懲戒解雇した日から、さかのぼって賃金相当額を支払わなければならない」と命令があり、私たち労側の完全勝利ですが会社は命令を不服とし中労委に再審査申し立てを行っています。その間もまずは府労委の命令を履行しなくてははいけません。全てに対し無視し続ける「会社」を絶対許してはなりません。

こうして今回の総行動を見たとき共通することは、使用者は労働者の権利を守り、業績や勝ち負けでなく人を大切にしなければいけません。コロナ禍の中、労働者など弱者の切り捨てが横行し企業主体とした社会が形成していると思います。切り捨てられた労働者は死刑宣告をされるようなものです。

人間は差別なく生きる権利（生存権）を持っています。それを企業や国に奪われる世の中であってはなりません。現在国家権力による労働組合排除とされる動きが顕著に見えますが、こんなときこそ団結し立ち向かわなくてはなりません。労働組合とは弱者の集まりで、一人ひとりが声を上げ、それが合わさったとき、とても大きな力となり、そういった権力をも打倒するのではないのでしょうか。

毎年この総行動には参加していますが、参加することによっていつも胸に刻まれるのが、「みんなが一人のために、一人がみんなのために！」の言葉です。

全ての労働者がその気持ちを持てば、少しでも救われる労働者が増えるのは間違いないと確信し、今後も運動の強化を図っていききたいと思います。

（書記次長 横山）